

## 平成 30 年度 奈良県知事賞

### 税金について考える

奈良県立大淀高等学校 一年 辰巳 瑠衣

自然災害が多い近年、ボランティアの方はもちろん、自衛隊、消防隊員の姿をテレビで拝見することが増えてきました。人手が足りない時は各地から派遣されて現地にかけてくれます。

私は、大きな災害にあったことがありません。しかし、テレビでインタビューを受けている人たちを見て、その人たちの心境を思うと心がすごく痛くなって、災害の恐しさを感じます。その中で活動されている自衛隊員、消防隊員の力は本当にすごく大きいものだと思います。現地の人たちの力となって不安を少しでも解消してくれる隊員たちの活動は税金で行われています。もし税金がなかったらと考えると、被害にあわれ不安や悲しみが大きい中、行方不明の家族を数少ない人たちで探すことになります。

救急車が来なければすぐに適切な治療を受けることができません。

避難所に物資が届かず必要なものを手にすることができません。

多くの救える命も救うことができず、抱えている大きな不安も残ったまま人々がおとろえてしまいます。

すべての人たちの命が救われるわけではありません。しかし、終日活動をしている姿を見て、税金の大切さや税金は無駄じゃないと改めて思いました。

そして、復興での道路の整備、全壊した家屋の補助金もすべて税金です。各個人の費用や義援金だけじゃ到底まかなえない額だと思います。

私の祖父母の家は鳥取地震で家屋の一部が崩壊しました。修理には多額の費用がかかったそうですが、一部補助金が出て助かったと話していました。

今働いていないため税金を支払っている実感がありません。しかし、お小遣いを使う時消費税を支払っています。それも立派な納税だと親から教えてもらいました。一人一人は小さな納税でもみんなのお金が集まれば大きな金額になると思います。

私の小さなお金もみんなの役に立っているのではないかと思うと、とてもうれしく思います。

災害は起きてほしくはないですが、税について考えることができよかったです。

今後は、仕事をする時は、納税するという責任をしっかりと果たして、少しでも多くの人たちの役に立てるようにがんばっていかうと思います。